

うどん循環作戦

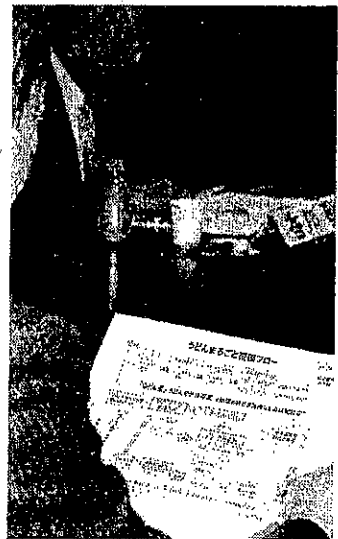
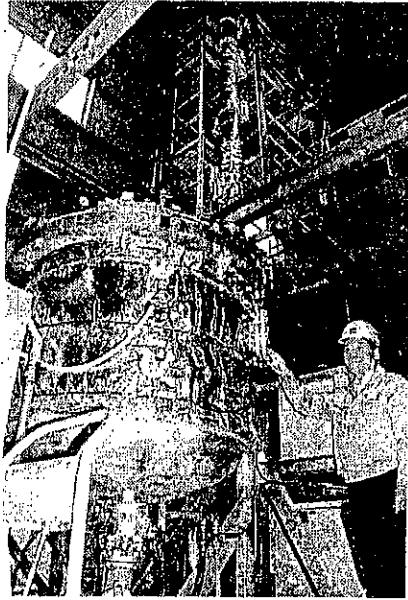
食べ残し→エタノール→ゆでる燃料

店であまったうどんをバイオエタノールをつくり、これを燃料にうどんをゆでる。「うどん県」のネーミングで知名度上昇中の香川県で、うどんの循環型社会をモデル化する「うどんまるごと循環プロジェクト」が始まった。

「環境に優しい」PRへ

高松市の機械メーカー「ちよだ製作所」の池津英二社長(72)は2年前、県内のうどん工場から年1千トンのうどん工場から年1千トンの規模の廃棄うどんが焼却されていると聞き、産業技術総合研究所四国センターな

どと一緒に、うどんからエタノールを取り出す研究に着手した。1年前、裁断したうどんに酵母を加えて発酵させ、エタノールを蒸留すること



一度に処理し、1週間でエタノール60リットルを抽出する大型プラントも建てた。

この話を、割りばしを回収して再生紙にする「NPOグリーンコンシューマー高松」代表理事の勝浦敬子

さん(64)が聞きつけた。「うどんを回収して循環型社会に」と池津社長に持ちかけ、県内大手の「さぬき製麺」の協力も得た。県の

うどんからエタノールを取り出すプラント。「うどんまるごと循環プロジェクト」の中心を担う高松市香南町西庄のちよだ製作所

「うどんまるごと循環プロジェクト」の初会合でうどん循環モデルのチャートが示された11日、高松市サンポート

モデル事業に採択され、廃棄うどんの回収費用など約580万円を引き出した。

店の食べ残しや売れ残りの廃棄うどんを、委託を受けた福祉施設が集め、協力する運送業者がプラントにトラックで運ぶ。できたエタノールはうどん店でうどんをゆでる燃料にし、蒸留後の残りがすから作ったメタンガスはプラントの運転燃料に、肥料は薬味のネギなどの畑で使う計画だ。

13日午前、関係者が集まって高松市内で初会合を開いた。4月から本格的に始め、年10〜15トンの処理をめざす。池津社長は「うどんは原料が小麦だけでエタノールをとりやすい。循環型社会を進めるきっかけにしたい」。勝浦さんは「うどんはおいしいだけでなく、環境にも優しいとPRしたい」と話した。(柳谷政人)

13日午前、関係者が集まって高松市内で初会合を開いた。4月から本格的に始め、年10〜15トンの処理をめざす。池津社長は「うどんは原料が小麦だけでエタノールをとりやすい。循環型社会を進めるきっかけにしたい」。勝浦さんは「うどんはおいしいだけでなく、環境にも優しいとPRしたい」と話した。(柳谷政人)

類型	24年 / 月 / 17日	資料No.	
掲載紙	(朝日) 日経 四国 徳島 愛媛 高知	その他()	